

社会科

1 社会科の研究主題

- (1) 基礎・基本の確かな定着をめざす。
- (2) 資料を読み取る力を身に付け、思考力の育成に力を入れる。

2 研究の概要

(1) 主題設定のねらい

新学習指導要領の、「歴史的事象の意味や意義の特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力・判断力・表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ること。」や「分野全体を通して、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりすることにより、思考力・判断力・表現力等を養うこと」を受けて、これらをどのように授業の中で具現化していくかが、研究主題に迫る方策であると考えている。

(2) 概要

① 新学習指導要領を踏まえた教科の基礎学力観と生徒の実態と課題

基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得が重視されることになったが、社会的事象の意味、意義を解釈する学習等に力を入れ、知識・技能の確実な定着を図る。

② 読解力育成の視点と取り組み

一人でも多く、教科書・資料を読ませ、全員でその意味を考える。また、グラフ・図版等も積極的に使用し、そこから何が読み取れるかという授業を展開していく。

③ 思考力・判断力・表現力の育成の視点と取り組み

単元ごとの授業の内容について感想等の文章を書かせ、資料をもとに課題を解決する活動を取り入れたり、発表したりすることで、社会的事象についての思考力や判断力、そして表現力を身につけさせる。

④ 評価の工夫

単元ごとの小テスト、中テストを行い、単元ごとの弱点を知らせるとともに、評価を行う。また、発言、忘れ物、提出物を細かくチェックすることで、授業に対する前向きな姿勢を培う。そして、教科書・資料等を毎時間音読させ、指導することによって読解力を身に付けさせる。

⑤ 指導法の工夫・改善点(指導形態、指導方法、開発、教材の工夫等)

少人数授業を行うことによって、一人でも多くの生徒に発表させたり、音読させたりでき、一人一人と緊張感をもった指導ができる。また理解度の違いを意識した発問や音読を考え指導する。そして、それらにもとづいて、小テスト等の内容を厳選して実施することができる。

⑥ 新学習指導要領を踏まえた取り組み

新学習指導要領には、「歴史的事象の意味や意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ること」とあり。さらに、「分野全体を通して、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明させた

り、自分の意見をまとめさせたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を養うこととあるが、上に掲げた概要は、これらを具現化していく研究主題の方策となっている。

3 19、20年度の取り組みからの考察、課題

授業に対する前向きな姿勢を徹底的にはぐくむために、発言、資料等の音読、忘れ物などをポイント制にすることで、前向きな授業態度が培われてきた。少人数制においては、密度の濃い実践が行うことができ、時間内に指導することができた。また、教科書、資料等の音読も、2年目に入ると自信を付けた生徒が多くみられ、積極的に読みたいという生徒が増加した。

また、単元ごとの感想文については、最初は何を書けばよいのか分からなかった生徒も、より多く書けるようになり表現力を付けてきた。

これからは、それらが形となって表れてくることを目標として指導していく必要がある。

4 21年度の取り組み

- (1) 1・2年生は、クラスを前半と後半にグループ分けし、歴史と地理の少人数制で行い、少人数の利点を生かした授業を行っている。3年生は、政治2時間、経済1時間に分け、授業を行っている。
- (2) 1・2・3年生のどの学年の指導においても、一人でも多くの生徒に教科書・資料を読ませ、分からない語句や文章を全員で考え、読解力を培っている。
- (3) 少人数授業では、ほとんどの生徒に発問等を行い、答えさせることで、授業への緊張感、集中力を培う。
- (4) 発言、読みなどに対してポイント制を行い、授業を活発化させ思考力を付けるプラスの材料とする。
- (5) 小テストを行い、単元ごとの知識・理解が定着していない箇所を知り補強するとともに、普段の家庭学習の習慣化を行う。
- (6) 常に基本へ戻り、基本を大切にできる姿勢を作る。
- (7) 3年生では、小テストに加え、中テストを行い、その比較によって、どれだけ伸びているか確認し、実践に生かす。
- (8) 3年生では1・2年生の復習課題を与え、定期テストに出題することで、それまでの復習を習慣化させる。
- (9) 少人数授業では机間指導を細かく行い、よりきめ細かな指導ができるようにする。
- (10) 平成19年度から行ってきた指導実践を、継続して実践することで、具体的な良い結果を出すことが目標である。

5 具体的な実践例

(1) 歴史的分野実践例

教科の研究主題
人物や事柄を中心に時代の移り変わりを学び、読解力、理解力、表現力を高める。
単元、主題名
東アジア世界とのかかわりと社会の変動
本時のねらい
① 畿内を中心に自治的組織が生まれたことを、土一揆などの様子から理解する。
② 戦国大名の登場、支配の背景について、応仁の乱や下剋上の風潮から考える。

研究主題にかかわる本時のポイント		
① 教科書資料を読ませることで読解力を身に付けさせる。 ② 惣の農業風景の絵を見せながら思考力、判断力を培う。 ③ 本時の感想等を書かせ、表現力、思考力を身に付けさせる。		
対象学年 1年		
本時の指導過程		
	指導内容	研究主題にかかわる留意点
導 入	○本時までの復習をする	○下剋上の風潮へつながっていく前段階をもう一度想起させる。
展 開	①教科書P. 68の絵画を見て、何をしているかや、なぜ集団で行っているのかを考える。 ②教科書P. 68の史料と学習資料③から、どうして借金帳消しになったのかを考える。 ③教科書P. 68の「応仁の乱」を見たりして、応仁の乱の原因や経過、結果を考察する。 ④「下剋上」の意味を「おもな戦国大名」を見て理解する。	○農村では惣という自治組織ができたことや農民が団結していく様子を気付き追究している。 (読解力) ○①を含めて理解力、判断力を身に付けさせる。 ○学習資料を用いて、応仁の乱の原因と経過や、室町幕府の衰退と、当時の支配階級に与えた影響についても考察させる。(思考力・判断力) ○「分国法」を読ませ、領国支配についても考えさせる。 (技能)
ま と め	※本時の授業を受けての感想等をノートにまとめる。	○表現力を培う。

① 評価

- ア 惣を理解しようと、図版・資料を積極的に利用できた。(関心・意欲・態度)
- イ 応仁の乱の結果、社会の様子がどのように変化していったかあらゆる角度から考察しようとした。(思考・判断)
- ウ 「分国法」を読みとることで、大名による領園支配を理解しようとした。(技能)

② 成果と課題

- ア 導入に時間をかけてしまい、まとめの時間が少なくなってしまった。
- イ 発問等、少人数を生かした授業ができた。
- ウ 惣という組織の概念をつかもうと生徒たちは資料や図版を用いて考えていた。また積極的な発問もあり、関心・意欲・態度には良い評価ができていた。
- エ 室町幕府が戦国時代も続いていたことに関心をよせて、それがどういうことなのか、読み取ろうとしていた。
- オ 本時の感想では、下剋上の様子について語る生徒が多く、インパクトの強さを実感できた。

(2) 地理的分野実践例

教科の研究主題		
<p>(1) 基礎・基本の確かな定着を目指す。</p> <p>(2) 資料を読み取る力を身に付け、思考力の育成に力を入れる。</p>		
単元、主題名		
<p>2章 都道府県を調べよう プラスα①日本全国と比較しながら調べる</p> <p>(2)～兵庫県～</p>		
本時のねらい		
<p>①日本全国と比べた兵庫県の農業生産や工業生産の特色と県内の地域差の特色を理解する。</p> <p>②農業や工業の発達を自然条件や人口、交通と関連付けて考察し、理解する。</p>		
研究主題にかかわる本時のポイント		
<p>①グラフや分布図・写真の読み取りを行い、読解力を身に付けさせる。</p> <p>②なぜその地域でその分野の農業や工業が発達しているのかを考察することにより、思考力を高める。</p>		
対象学年 第2学年		
本時の指導過程		
	指導内容	研究主題にかかわる留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の「農業生産額の内訳の比較」のグラフから兵庫県の農業の特色を読み取り、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視をしながら、ワークシートに表現できていない生徒に対し、支援を行う。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 畜産のさかんな地域と稲作のさかんな地域の違いを資料や地図帳、既習の学習内容から考察する。 酒造造りがさかんな理由を発表しあう。 兵庫県の工業の特色を複数の資料を読み取りまとめ、発表する。 臨海部に鉄鋼や石油化学工業が発達している理由を考察し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料や地図帳、既習の学習内容から考察することにより、読解力・思考力を高める。 おいしい酒造りに必要な条件とは何かを考えさせ、思考・判断させるとともに、適切な表現をさせる。 複数の資料を活用させることにより、多面的・多角的に考察させる。多種多様な意見を意図的に発表させることにより、資料の読み取りや考察の不十分な生徒に、より深く考えさせる。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 農業や工業の各分野の発達には、自然条件や立地条件、人口、交通・輸送などが影響を与えていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳や既習事項、教科書の関連ページ等で確認する。

① 評価

ア ワークシートに自分の考えや資料を分析した結果を記入するとともに、作業に意欲的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)

イ 複数の資料を用い自分の考えをまとめている。(思考・判断)

ウ グラフや分布図などの資料を適切に読みとっている。(技能・表現)

② 成果と課題

- ア 資料を読みとることによって、課題解決を図ることを授業の中心においたことにより、資料の読解と思考の場面を多く取ることができた。
- イ 複数の資料を用いたことにより、生徒一人一人の着眼点の差異が生まれ、多様な意見の発表ができ考えを深めることができた。
- ウ ひとつひとつの資料を読み取る力は向上しているものの、同時に複数の資料を活用し、考えをまとめる作業になると極端に意欲が低下する生徒も見られるが、「諸資料にもとづいて多面的・多角的に考察する」という教科の目標を達成させるためにも、今後も継続して様々な資料に親しませ、それらの活用の技能を高める工夫を行っていく。

6 研究のまとめと来年度への課題

昨年度、T Tとして取り組んできた指導形態は、本年度から少人数指導となり、試行錯誤を繰り返しながらも進めてきた。一斉指導と違い、少人数指導では、生徒の授業に対する集中力も増し発言も活発になった。

社会科の年間指導計画を6つのスパンに分割し、それぞれを基礎コースと、標準・発展コースに分割した。授業の中で、コースに応じた発問を工夫することなど、生徒一人一人に合った授業内容を目指した。さらに、スパンごとの学習内容を示すことにより、学習に対する見通しをもたせ、モチベーションの維持と集中力の持続を図った。それは徐々にテストの結果などに成果が表れてきた。また、スパンごとに授業のまとめを行ったことも大きな力となった。学期の評価を行うごとに、下位の評価を受ける生徒が激減していった。21年度の2学期にはそれが顕著となった。

単元が終了するごとに、授業の感想等、論述の活動を行ったことは、思考力・表現力を身に付けさせる上で効果があった。21年度になってからは、授業の感想だけではなく、授業内容に関係している事柄について自分の言葉で述べさせることにした。例えば、戦国時代の授業であれば、「下剋上について自分の言葉で説明してください」「何も知らない人が理解できるように説明してください」と課題を出した。昨年度、授業の感想を一年間書かせたことで、記述式の問題に対する苦手意識はある程度払拭していたこともあり、円滑に取り組むことができた。また、定期テストに記述式の問題を数多く出題することに心がけた。その結果、自分の表現によって記述できる生徒が増えた。特に3年生での成果が著しく、夏休みの課題である税の作文コンクールにおいては、全国納税貯蓄組合連合会会長賞を含む数多くの入選を果たした。

読解力の育成については、授業の導入に、教科書を音読させることを当初から徹底した。初期は音読することを嫌がったが、徹底することによって史料を読解する力を徐々に付けていった。例えば「地券」の史料などは、読み下すことは中学生としては困難であるが、個々に読解しようと試みる生徒が多く、自ら読みたいと願う生徒が激増した。教科書を音読したり、史料を読んだりするという一見地味な活動であるが、年間を通して継続していくことで、着実に読解力の力が身に付いていったことを実感した。

今後は、思考力・判断力をさらに高めるため、例えば、地理的分野では様々な地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させていく。また、読解力を高めるために、例えば歴史的分野で、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえたり、公民的分野で、現代の社会的事

象に対する関心を高めるために、様々な資料を適切に収集、選択したりする学習活動を充実させていく。これらの指導について工夫・改善を重ね、教科の目標である公民的資質の基礎を培っていく。